別紙様式

「ことばの教育」パイロット校事業　報告書

学校名	三次市立三次中学校
校長名	友国　貴視
所在地	広島県三次市三次町１７３１番地
ＨＰ	www.hrs-miyoshi-j.hiroshima-c.ed.jp
学級数	７学級　　生徒数　１７０名
タイプ	Ⅰ　・　◯

1　研究の概要

（1）研究主題

生きる力の土台を育てる教育活動の創造

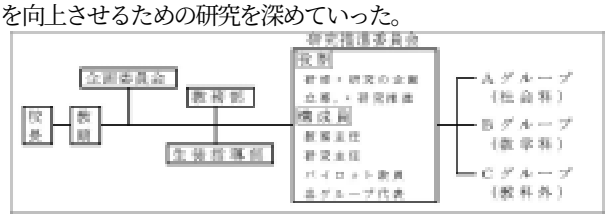
～ことばの力を育てる取組みを中心にして～

（2）研究のねらい

本校は平成１７年度から２年間，広島県教育委員会から「ことばの教育」パイロット校（タイプⅡ）の指定を受け，「ことばの力」を育てる取組みを進めている。昨年度からの成果は生徒指導などで徐々に出ているが，「低学力」や「自己肯定感の低さ」などの課題が残っている。そこで本校の教育目標にある「たくましく生き抜く＝どんな困難にあっても逃げ出さずへこたれない」生徒を育て，「生きる力」の土台となる学力と心身の育成を目指すため，今年度も全教育活動で「ことばの力」を育てる取組みを実践する必要があると考え，本主題を設定した。

（3）研究組織・体制

本年度は昨年度の実績をふまえて，研究する領域を２教科１領域に焦点化し，授業の改善，生徒の思考力や表現力を向上させるための研究を深めていった。



2　２年間の取組みの概要

（1）平成１７年度は「ことばの教育」の理解を深め，学校生活全般にわたって普及しようと努力した。

○　生徒の発言力を向上させるための授業改善による発言内容や発表方法の工夫・改善

○　群読や暗記スピーチなど生徒の達成感を得やすい活動の積極的な導入

○　小テストや定期試験の工夫・改善

○　挨拶・日常的会話等のコミュニケーション力の向上

（2）平成１８年度は，前年度の「基礎的なスキルの定着が不足していた」という反省点を克服しながら，以下の取組みを重点的に行った。

○　学力の向上をはかるための指導法の工夫・改善

○　心の教育の充実をはかるための研究

○　地域に根ざした特色ある「三中教育」の研究

○　研究の焦点化

（3）研究の焦点化と内容

①　全体としての研究内容

○　生徒の「自己肯定感」の向上

○　生徒の学力の向上

○　生徒指導上の課題の克服

②　各グループの研究（焦点化した内容）

Ａグループの研究…多様な資料の活用方法と指導方法を工夫し，「論理的思考力」を育てる。

Ｂグループの研究…物事を数理的にとらえ，筋道を立て解決しようとする論理的能力を高める。

Ｃグループの研究…豊かな感性を育てることで自己肯定感を高め，よりよい人間関係を築こうとする意欲を育てる。

3　研究の成果と課題

（1）成果

①　基礎的な言語技術が定着してきた。

昨年度の課題であった「基礎的な言語技術の定着」をめざして，毎週木曜日の朝「ことばの時間」を実施してきた。紙上問答ゲームや描写，ナンバリングの定着など幅広く基礎的なスキル学習を続けた。その成果として，試験の解答や感想文・作文などで，「結論先行の文章」「根拠や理由を述べた文章」「ナンバリングを使った表現」などを活用する生徒が増えた。

②　研究の焦点化と指導方法の工夫・改善

教科別の研究は，３グループに分けて研究する範囲を焦点化した。Ａグループは社会科中心の研究を他の８教科にも生かせないかを探る横の研究，Ｂグループは数学科を中心に１～３年までの３年間の指導をどのように進めるかを探る縦の研究，Ｃグループは本校生徒の大きな課題である「自己肯定感の低さ」を改善させるための総合的視野に立った研究という重点的研究を進めてきた。

グループごとに焦点化した研究の成果として，焦点化した中心教科の指導方法の工夫・改善ができ始めた。また，焦点化した教科だけでなく，他教科でも同時進行で工夫・改善を行う中でプラスの効果が出始めるなど，中心教科から全教科へ広げる「横の広がり」ができ始めてきた。

例）Aグループ中心教科（社会科）の研究

○　具体的につけたい力

・写真やグラフ，表など多面的な資料から必要な情報を収集する力

・収集した方法を分析する力

・分析した情報と既習の知識をもとに問題を解決する力

・生徒の表現力の向上と文章力の深化

○　具体的実践内容

・発問の工夫＝生徒の「単語発言」からの脱却→㋐結論先行型発言の定着，㋑理由・根拠を取り入れた発言の定着，㋒自らの考えを取り入れた発言の深化

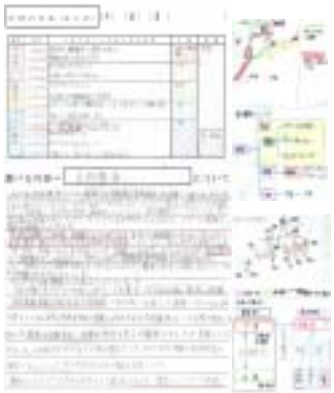
・情報分析能力の向上をはかる→㋐情報分析の順位性の理解（概要→詳細，全体→部分，大きい→小さい）。
㋑視点を変えた考え方や発想（主観的→客観的）
㋒図や表，写真など情報を融合的に考える方法

・思考，自信の源になる基礎的な知識の習得→基礎的な知識理解のためのドリル学習を徹底し，単純であっても豊富な知識を習得させる

・文章表現の機会の増加→㋐毎時間の宿題としてキーワード学習の継続実施，㋑単元ごとのまとめ学習の継続，㋒思考・判断力を問う試験問題の工夫

○　成果

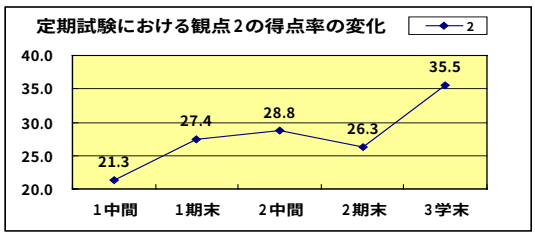
・発表の形式を指導・徹底することで，生徒の「単語発言」がなくなり，幅広く考えて表現する生徒が増えた。



・暗記重視の指導から，『なぜ思考力や判断力を身につけるために知識が必要か』を考えさせたことで，生徒自身が意欲的に基礎知識を習得し始めた。

・まとめ学習や自主的な家庭学習を推進する中で，情報分析の技術を活用する生徒が増え，表現力が豊かになった。

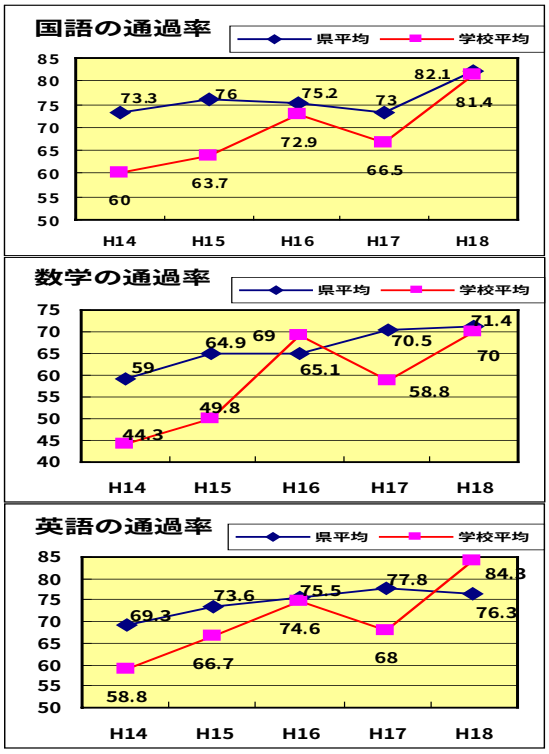
・観点２「社会的な思考・判断」に関わる得点率が徐々に高くなってきた。



③　幅広い活動の相乗効果と生徒の学力の向上

本校がパイロット校のタイプⅡであることが確実に成果に出始めている。昨年度は取り組む範囲を広げすぎた面がありうまく機能させられなかった部分があった。今年度は基礎的な技術の定着と，重点的な研究の成果がうまくつながり，好循環に機能し始めている。

また，グループ研究を進める中で，少しずつではあるが生徒の学力が向上しているという実感を持っている。「基礎・基本」定着状況調査の通過率のグラフからも読み取れるように，広島県と本校との通過率の差が縮まっ



ており，英語は県の平均を上回った。

（２）課題

①　「ことばの教育」と学力向上との関連性

生徒の学力の向上をめざして「ことばの教育」を取り入れた結果として，生徒の学力が向上しつつあるという実感は得られている。しかし，学力の向上と「ことばの教育」の関連性については相対的に関連があると感じているだけで不透明な部分が残っている。さらに関連を読み取る指標の精査をしていく必要がある。

②　さらなる教育内容の精査

本格的に各教科での研究を進める中で，「生徒の思考力を向上させるにはどの教材を活用すべきか？」で悩むことが多かった。「あれも，これも」と指導者の意欲を優先しすぎることなく，生徒の思考力を高めるために教育内容の精査を行い系統立てた指導を実践する必要がある。

③　「ことばの教育」の継続的な実施の必要性

「ことばの教育」を中心にした研究を２年間実践してきて，本校では生徒実態に確かな変容を感じ取っている。しかし，指導者側の意識が緩んでしまうと，生徒は伸び悩んでしまう可能性がある。本校の一番の課題である自己肯定感を高めるために，この「ことばの教育」は基盤となるのだから，継続して実施していきたい。